

## 2006年度校友会定時総会

### 7月8日(土)「ホテルグランドパレス」で

校友が一堂に会す「校友会定時総会2006」が7月8日(土)、東京・九段下の「ホテルグランドパレス ダイアモンドルーム」で開催されます。開会は14時で、会費は1万円(家族・同伴者は8千円、子供無料)。旧交を温め、家族ともども親睦を深める、年に一度の総会に、ふるってご参加ください。

参加の申し込み、問い合わせは校友会事務局(電話03・3265・7579)まで。

※会場へは、【電車】地下鉄「九段下駅」徒歩1分、JR・地下鉄「飯田橋駅」徒歩7分【タクシー】東京駅から約10分、上野駅から約15分。

## 春の褒章

<5月15日現在判明分>

◇旭日双光章

鈴木 彦太氏(すずき・ひこた=昭33商経)

◇瑞宝双光章

小林 幸吉氏(こばやし・こうきち=昭40法)

◇瑞宝単光章

千島 定吉氏(ちしま・さだきち=昭43法)

岡部 博師氏(おかべ・ひろし=昭44法)

張替 三明氏(はりがえ・みつあき=昭58法)

## 《校友の本紹介》

授業に使える「英語三択クイズ&〇×クイズ1500」

吉田文典 著

高校で英語教員を務める吉田文典さん(昭61文)が生徒たちの抱く「英語アレルギー」を治療する、英語クイズ集「授業に使える英語三択クイズ&〇×クイズ1500」を刊行した。

これまでも「英語パズル・雑学教材」シリーズなど英語に慣れる、英語を好きになるための教材を著してきた吉田さん。本書も「アルファベットという名称の由来は？」—ギリシャ語の最初の二文字 $\alpha$ (アルファ)と $\beta$ (ベータ)から—といった「トリビア、的なクイズをはじめ「大げさな話を英語で言うと？」—fish story(釣りの自慢話にはほらが多きことから)—などよく使われる比喻や熟語を問うものまで、楽しみながら基礎的な学習を行える入門書。また、左ページが問題、右ページが解答・解説で、左ページをコピーすればそのまま教材として使えるようになっており、英語教育に携わる方には必携の一冊だ(明治図書・本体3300円＋税)。

## 萩野矢さんが函館で写真展

フォトグラファーの萩野矢慶記さん(昭36商経)が写真展「ウズベキスタン シルクロードのオアシス」を開催する。北海道立函館美術館の開館20周年記念「魅惑のシルクロード展」の一環として併催されるもので、歴史的遺産とそこで暮らす人々の表情を紹介した作品が展示される。5月20日から7月9日まで、観覧料は一般1000円、高大生600円で、写真展は観覧無料。

## 《専大校友を訪ねて》

### 勝敗よりも人間的な力を—

第78回選抜高校野球でベスト4 岐阜城北高・野球部監督 藤田 明宏さん(平2経済)

「センバツ」初出場で県勢としては47年ぶりにベスト4進出。岐阜三田高と岐阜藍川高が統合し、現校名となって2年。「甲子園で新しい校歌を」という目標を達成した(岐阜三田として夏は2回出場し1勝)。

県立岐阜商業高の主将・捕手として出場した夏の甲子園大会での初戦敗退が、指導者を目指す原点となった。専大準硬式野球部でも主将。「強豪校出身者との寮生活は刺激になりました」と懐かしむ。同期9人のうち4人が教職課程を履修し、夢に向かって励みあった。全国で活躍する仲間は貴重な情報交換相手であり、ライバルでもある。



商業科教員として赴任した東濃実業高で高校、大学を通じて先輩の工藤昌義さん(昭62商=現土岐商業高監督)から指導術を学んだ。「同門対決」と話題になった昨夏、県大会決勝の朝は、先輩と試合ができるうれしさに涙が出たという(3対1で土岐商が甲子園へ)。

「練習で泣き、試合は楽しもう」がモットー。初勝利の後、2試合目からは肩の力を抜いて臨んだ今春のセンバツ。準決勝で対戦した横浜高は「高校生離れしたチームだが、勝てないことはないと感じた。いい経験になりました」と振り返る。

5月の第二日曜日には「母の日会」を開く。部員はカーネーションと共に感謝のことばを伝える。「周囲の支えがあってこそ、野球を続けられることを忘れない」ための恒例の儀式だ。「勝敗よりも『人間的な力』をつけることが高校野球の真の姿」と語る。失敗しても選手を責めない。「失敗から学ぶことがある」と経験しているからだ。

「『専大』で野球の縁を結んでもらいました。甲子園内野銀傘柱にある『専大』の広告を見るたび力強く感じます」

エースを温存した春の県大会は準々決勝で敗退。「課題は見えた。『必死に』『前向きに』のキーワードを忘れずに挑戦者として、泥臭く戦うのみ」と「夏、を見据える。